

支部長就任挨拶

社団法人日本測量協会

北海道支部長 **本 多 満**



社団法人日本測量協会会員の皆様、測量業界の皆様そして、測量業界を応援して下さいます皆様におかれましては、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

この度、社団法人日本測量協会北海道支部長をお引き受けいたしました本多満と申します。

先ずはこの3月11日に発生しました東日本大震災は、100年を越える観測の歴史のなかでも経験したことのない未曾有の災害でございました。多くの生命が失われ、未だ行方の解らない方もたくさんいらっしゃいます。また、避難生活を余儀なくされておられます。犠牲になられました多くの方々のご冥福をお祈り申し上げますとともに、被災されました皆様に心からお見舞い申し上げます。

ここで、支部長をお受けするまでの経緯について若干触れさせていただきたいと思えます。

私は北海道開発行政経験として本省、本局勤務が長く、北海道総合開発計画や道路整備の長期計画、また、5カ年計画の策定等計画部門、さらに開発予算関連等に関する業務が長く現場第一線とは離れていたため「測量」に関する業務はほとんど経験はありませんでした。

私が「測量」に関係したとすれば、学生時代の講義程度のものだけです。こんな状態ですので今日の測量業界の事情、測量技術などについてはほとんど知見を有していないといっても過

言ではありません。このような私が皆様方のお役に立てるかどうかと思いましたが、前支部長の強い要請、また日本測量協会の専務理事が自ら足を運んでくれた誠意や測量についての様々な現状等お聞きし、私でもお役に立てるのではないかと引き受けさせていただきました。

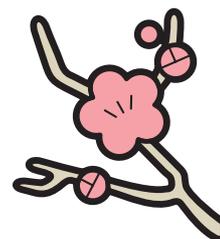
さて、今測量業界は大変厳しい現状にあります。公共事業抑制の影響から測量業務発注量も激減し、それが競争の激化と登録事業者の減少となって現れております。

これからの測量はどのように進化していくのか、どこまで進化していくのか大変楽しみなところです。我が国においても衛星測位システムの研究に着手し、昨年準天頂衛星が打ち上げられました。現在、技術実証試験あるいは実用実証試験が行われており、このシステムが完成すれば測量成果の精度は飛躍的に向上するといわれております。一方で、この進化した測量技術を十分に使いこなしていけるのかと言う見方もあります。二次元情報を積み重ねて三次元情報として活用していくというのがこれからの基盤地図情報で、国は地理空間情報活用推進基本法の制定、推進計画の策定と各種の施策を実施しており、我々測量業界も今後その実現に取り組んで参らなければならないと考えております。

社団法人日本測量協会は、測量に関する技術の研究、開発、啓蒙普及を目的として設立され

た団体でございます。私も、その一端を担う支
部長をお引き受けしたからには、この目的達成
のため努力して参る所存でございます。会員各

位そして測量業界の皆様には、一層のご支援、
ご協力を賜りますことをお願い申し上げ、就任
に当たってのご挨拶といたします。



熊谷支部長退任挨拶

～平成23年度定期総会より～

前 社団法人日本測量協会

北海道支部長 **熊谷 勝弘**



本日の次第にないのですが、今回をもって退任させていただくことになり、一言皆様にご挨拶申し上げたいと思います。

顧みますと平成16年に前支部長の小林さんから引継をいたしまして、かれこれ7年になりました。歴代の支部長の勤務されていた記録を見ますと一番長いのが小西郁夫さんで6年ほどですが私はそれをもう超してしまったということになりもうそろそろ退任の時かなと思いました。また引継の時期を誤りますと後任に人材がないという事になりかねない、それに今年は協会が設立されて60周年という記念でもあり、ちょうど引継の良い機会となり退任させていただくことにいたしました。

ただいまは、予期せぬ感謝状を賜りまして、身に余る光栄であります。

この7年の間に様々な事柄が多くありましたが、やはり石島さんが理事長を務めておられました「北海道測量事業協会」の解散が大変大きな出来事であったように思われます。

そもそも私どもの役割は測量士の社会的地位向上、その育成、継続的技術力の確保が主たる事業のため、業界の主張を支援する立場にはありませんが、組織を通しこれまで北海道の開発に貢献してきた大きな業界が解散するにつきましては実に残念であったなと思っております。

平成13年頃を一つの境にいたしまして、先程、

森田部長よりお話しがございましたが、北海道の開発予算もどんどん減って参りまして、当時は1兆2～3千億円くらいあったと思いますが、今は5千億円を割っております。そんな意味では建設業界もさりながら測量業界の皆様には大変な状況に置かれております。

失われた20年といわれるように我が国の経済は低迷を続けておりまして、なおかつリーマンショックなどを経ながらも何とかこの年あたりは少々向上しかけたところに、この大震災が発生いたしました。

まさに国難と言うべき極めて不幸な時代に直面したと思えます。

我々の父や母や祖父母の時代に我が国は敗戦から立ちあがり、世界第二の経済大国となったことを思えば、再度復興は必ずや成せるものと確信しております。

ところで、お見受けすると私とだいたい同じくらいの年代、もう60歳を越えてそろそろという方々と拝察いたします。思うに、我々の先の人生はあまり永くは無い。無責任な言い方ですが、この国難はご来賓始め若い方々にやっていただくことにしてはどうかと思っています。

しかしながら、むしろあとが短い人生ですから身を捨てて若い者の代わりにやれることがあるじゃないかと思えます。

例えば、福島の子原子力災害に対し簡単な操作

で調整ができるなら、今危険のもとで懸命努力している若者の代わりに、被爆しても人生残り少ない我々が代わりに行って協力できたらと。もっとも、原子力操作がそんな簡単にネジを曲げればよいくらいで出来ることではありませんが、我々年配者がこれからの国土を復興してゆかねばならない若者に代わり何とか国家国民のためお役に立てればと願っております。

皆さん頑張っていこうではありませんか。

それから、後任の本多満さんですが、開発局長を終えられて先程土屋事務局長の紹介にもあ

りましたが、(社)北海道開発技術センターの理事長をしております。開発局においては計画畑を歩いてきた極めて優秀な方であります。是非皆様のご支援を賜りながら、新支部長を盛り立て「日本測量協会北海道支部」の益々の活性化、活発化を心から祈念いたします。

最後になりましたが、これまで支えて下さった緒先輩はじめ関係者の皆様に衷心より御礼申し上げ簡単ではありますが、退任の挨拶とさせていただきます。

どうも有難うございました。

